

就職活動はどんなスケジュールでしたか

昨年の夏から秋にかけて、総合重機メーカーのインターンシップに参加したほか、視野を広げるためにコンサルティング会社でアルバイトをしていました。その後は研究室の中間発表などがあり、本格的に就職活動をスタートしたのは採用情報が解禁される12月頃からです。その間にも、先輩からもらった就職四半報や業界地図を読んだり、社会人の友人に就職活動や仕事について聞いたり、情報収集は常に行っていました。

どんな業界や職種を志望しましたか

当初は規模の大きなものに興味があり、サマーインターンシップでは重機メーカーのプログラムに参加しました。しかし、研究や専攻と関係なく、視野を広く持つて多様な業界を見てみたいという思いもあり、就職活動が本格的に始まると商社や金融業界なども含めて70社ほど会社説明会に参加しました。漠然と「影響力がありそう」や「大きい



ことが出来そう」といったイメージを持っていた仕事について、より具体的に働き方をイメージするため話を聞いていました。少しずつ興味のある仕事や業界を絞っていくと結果的にメーカーが多くなりましたが、「形になるものを手がけたい」という気持ちで再認識することが出来たので、幅広く業界研究をしました。経験は有意義だったと感じています。

最終的に内定を受諾したキヤノンに、研究内容と近いことにチャレンジできる点が決め手となりました。画像認識技術を活用したロボット事業に興味があるので、入社後に取り組んでいきたいですね。

Case 01 活動体験談

自分の可能性を模索するため、幅広い業界にアプローチ

東京大学 工学系研究科 修士2年 K.H

【就活データ】

- 就活開始：2013年8月
- 就活終了：2014年4月
- 志望業界：メーカー
- エントリー：20社
- 面接社数：10社
- 内定社数：4社
- 内定先：キヤノン株式会社

就職活動で大切だと感じたことは

強く意識していたのは、広い視野を持つことです。「この業界は興味がない」と自分で決めつけている部分が意外とあるので、一歩ひいて考えてみることは大切だと思います。あとは会社説明会で聞いた内容だけでなく、1R情報をチェックするなどして、気になる会社について多角的に理解することを心がけていました。また、自分の可能性を見出すために、様々な活動に挑んでみることも大切だと思います。私はコンサルティング会社でアルバイトをしていたのですが、睡眠時間を削って力を注ぎました。その甲斐もあって、就職活動を終えた今は大きな充実感と納得感を得ることができたと感じています。

就職活動で一番苦労したことは

沢山ありますが（笑）、やはり研究と就職活動を両立し、スケジュール通り進めることが一番大変でした。1日に2社ほど会社説明会に参加して、その後は研究室に帰って徹夜…なんて日

もありました。それでも、多くの業界を知りたいという強い思いがありましたし、一生に一度の就職活動なので後悔したくなかったので妥協せずに取り組みました。

理系ナビのサービスはいかがでしたか

キャリア相談を利用しましたが、一対一での面接練習やエントリーシートへの添削などでサポートしてもらいました。特に自己分析では、自分の強みとエピソードの整理などを教えてもらい、それ以降の就職活動にとっても役に立ちました。

これから就活に臨む読者へのアドバイスをお願いします

一つの業界や職種に縛られず、一歩ひいて沢山の業界を知ってほしいですね。会社説明会やセミナーに行つて、自分の新しい可能性を引き出すのも良いのではないのでしょうか。私自身、職種自体も研究職に絞っていませんでしたし、専攻と少し離れている商社や金融なども幅広く活動をしました。就職活動中は大変なことも多いと思いますが、楽しんでやって欲しいですね。

就職活動はどんなスケジュールでしたか

学部3年の夏に警察庁の5日間のインターンシップに参加したのが最初です。その後、大学の公務員対策セミナーでの情報収集や、参考書などで公務員試験の対策をはじめました。後期の授業が始まったタイミングで一旦中断して授業に専念し、春休みから二次試験の勉強を真剣に再開しました。実は国家公務員の試験は受かると思っていたにもかかわらず、のんびり構えてしまつて一次試験の対策しなかつたんです。一次合格が決まつた時には二次試験まで3週間しかなく、慌てて勉強する形で大変でしたが、同じ研究室の公務員志望の友人と一緒に、励ましあいながら勉強していました。最終的には無事、警察庁から内定をいただき、就職活動を終えることができました。

志望業界と内定先は

大学で地震被害の研究をしていたので、安全・安心に関わる仕事であること、専攻の建築を軸に幅広い分野に関われる仕事であることの2点にこだわつ

て就活をしていました。建築学科だと、建築事務所やディベロッパ、ハウスメーカーに就職する学生が多いのですが、私は「生活を豊かにする建物を作る」という建築の仕事よりも、「人を守る」仕事がしたいと考えていたんです。

官庁訪問では消防庁などにも行きましたが、同じ「人を守る」という仕事の切り口であっても、消防庁は「大規模災害発生時等で目の前にある人命を救う」ための仕事、警察庁は「犯罪、事故、災害等の脅威に對峙し、安全・安心に暮らせる社会をつくる」ための仕事であると理解しており、仕事の内容を細かく見た際に、人命救助という



理系の就職

case
02

マイノリティな進路こそ、オープンにすることで情報収集を

千葉大学 工学部 建築学科 4年 M.N

【就活データ】

- 就活開始：2013年6月
- 就活終了：2014年10月
- 志望業界：公務員（国家公務員、地方上級）
- エントリー：4社
- 面接社数：4社
- 内定社数：2社
- 内定先：警察庁

ピンポイントなミッションと社会全体に照準を合わせた幅広いミッションと「どちらに自分が深く関わりたいか？」という点について考えさせられました。

警察庁はサイバー対策だけでなく、全国警察を結ぶ独自の情報通信網を守るための災害対策や交通管理など、理系分野においても幅広い活躍の舞台があり、社会のあらゆる側面から「人を守る」という働き方に大変興味をそそられました。また、警察という堅い印象を持っていたのですが、インターンで実際に働いている方にお会いすると、とても気さくな方が多く、クールな職場の雰囲気も自分に合っていたところが、警察庁を志望した決め手になりました。

就職活動で一番苦労したことは

私の周囲は院進学が当たり前の環境で、周囲に公務員就職はもとより就職活動の相談をできる先輩が少なかったため情報収集に苦労しました。具体的には2次試験の専門科目試験で製図の試験があるのですが、過去問題はあっても解答がないので自分の解答が正しいか分から

ず、自分で調べなければならぬという点が大変でした。一級建築士である研究室の先生にアドバイスを頂きながら勉強を進められたことは幸運だったと思います。

これから就職活動に臨む理系学生に向けてのメッセージ・アドバイスを

出来る限りインターンシップや説明会に積極的に参加することを勧めます。実際に働いている方からお話を聞くことで仕事の理解が深まりますし、職場の雰囲気を感じることが出来るので、貴重な経験が得られるはずです。

理系で学部卒就職を目指す学生は少数派で、特に専攻外の分野での就職となると、孤独感や引け目を感じてしまいがちですが、周囲の目を気にせず、あえてオープンにすることで協力が得られることもあると思います。一緒に頑張っている仲間を見つめることができれば、情報も得やすくなりますし、何より自分のモチベーションが高まると思います。